

全国から届いたニュースを発信！ ポジティブな視点をはぐくむメディア



水鏡にうつる冬の朝(東員町鳥取)

春になったら君は

何の見当もつかぬまま、四十三歳になった。功も名も成していない。ただ親友はひとりいる。彼は小学六年生。名は、たっくん。よく行く居酒屋の俵で、いつも店でネットゲームをやっている。

彼は新型コロナが流行りだした頃から不登校になった。家族以外で話す相手が、居酒屋の常連客になってしまい、段々大人みたいなことを言うようになっていく。ついこないだまでアニメの話ばかりしていたのに、今はサッカー日本代表の話で大人と話せるようになっていく。少し変声期にも入ったようだし、可愛かった時代を知る者としては寂しい限り。一緒にザリガニ獲りに行ったり、銭湯に行ったりする日はもう来ないのだろうか。

そんなたっくんが先日、新しい親友を紹介してくれた。新しい親友は、ハ

ルくんという中学一年生。二人はよく夕方会うようだし、毎晩ネットゲームでも話している。中学校に行けば、人がたくさんいて、友達が増えるということも、ハルくんには教わったようだ。

その効果はテキメンで、二学期も終わるこの時期、たっくんは週二で登校するようになった。「中学に行く練習みたいなもんだよ」と話している。親御さんは泣いて喜んでた。

春になったら、君の青春は本格的に始まるのかもしれない。しかしな、青春は長いぞ。一生青春が当たり前の時代。スタートダッシュだけで力尽きるなよ。青春に疲れたら、いつでも俺に電話すること。休み休み行こうぜ。

その言葉を伝えたくて、今夜も親御さんの店に向かっている。

(千葉県・まりもおじさん・43歳)

笑う力

最近、ふと笑うことがある。それは、人は目だけでは感情が伝わりにくいという

こと。コロナにより、あたりまえになっっているマスク。顔が半分も隠れ、目でしか感情を表せない。目だけでは、相手がどう感じているか分かりにくい。私は、マスクをしていても相手に感情を伝える方法があると思う。それは、

笑うこと。笑うことで、目でもじゅうぶんに感情が伝わるが、さらに『声』でも伝えることができる。

マスクで口元を見せる機会が減り、『笑顔』が少なくなっているが!! それでも、声を出して笑ったり、笑顔になったりすることで相手に自分の感情が伝わる。笑う力ってすごい。これからも、笑顔いっぱい毎日。

(東員第一中学校・2年生・伊藤梨音南)



将来の夢

私は、ふと思った。
「自分の夢ってなんだろう。」

私はまだ将来の夢が決まっていな小学生のころは、学年が変わるごとに将来の夢を語っていたが、現実を見始めた今。自分に合う夢が見つからないから私は、これをきに改めて夢について考えてみた。

まず、周りの人に聞いてみた。親。友達。親せき……主に大人だ。友達はやはり自分のしゅみや興味のあるものを夢にしたい子が多かった。でも、大人は少し違った。私としては、ちゃんとした職業が夢だと思っていた(パティシエ、先生など)。けど、親は言った「こんな大人になりたい。と思うだけで、立派な夢だ。」

親せきは言った。
「どんな夢であろうと、想像することをおきかめてはいけない。」
そうなのか。こんな大人になりたいと思うのも夢なのか。「想像」を止めたいいけないのか。新しい発見がそこにあった。

今の自分は、「誠実な大人」という立派な夢を持っている。前の私とは違う新しい自分を持っている。どんなことでも想像することをあきらめてはいけない。

(東員第一中学校・2年生・日紫喜真麻)

いのち、いきる

ときに思いもしない瞬間に、感情は揺れ動くものだ。それは7歳の息子がお風呂に入りながら不意に語りはじめた話がきっかけだった。

彼には毎日一緒に下校する仲のよい友だちがいる。K君だ。その日も途中でまではいつも通りの帰り道だった。いつもと違ったのは、道端に天に召された雀を見つけたこと。ふたりは驚き戸惑いながら、一旦その場をあとにしたらしい。

わたしは湯船に浸かりながら、大切なものに気づかせてくれたような感覚に包まれていた。息子に対して、「素敵な友だちがいるね。大切にね。」という言葉が口をついて出ていた。

森羅万象。わたしたちはあらゆる生命や事象に囲まれながら、毎日を生きている。野に咲く花。地をうごめく虫たち。澄んだ空気。太陽の光。そして

ところが、自宅の前まで来てお互い別れようとしたとき、K君が突然泣き出した。不思議に思った息子が理由を聞くと、「もう雀に死んでほしくない」という感情が込み上げて、哀しみが涙となって流れたのだという。

わたしは湯船に浸かりながら、大切なものに気づかせてくれたような感覚に包まれていた。息子に対して、「素敵な友だちがいるね。大切にね。」という言葉が口をついて出ていた。

森羅万象。わたしたちはあらゆる生命や事象に囲まれながら、毎日を生きている。野に咲く花。地をうごめく虫たち。澄んだ空気。太陽の光。そして

小鳥のさえずり。K君は「雀の死」という事象に、何かを敏感に感じたのだと思う。雀に命があること。命にはじまりがあれば終わりがあること。終わりはいつややって来るかわからないこと。人間も同じだ。

その後、ふたりは近くの公園に雀のお墓をつくり、安らかな眠りを祈り、帰路についたようだ。そんなエピソードに耳を傾け、K君のやさしさを慈しみながら、次第に我に返っていく自分がいた。思えば息子とお風呂に入り、こうしてゆっくり彼の話を聴くのはいつぶりだろうか。猛スピードで過ぎていく時間の波に溺れてしまうことを楯にして、本当に大切な存在をないがしろにしないだろうか。

ただそこにある日常を目の前に、改めてわたし自身に問いかける。当たり前だと思ってるやしないかい？ 鈍感になりすぎてやしないかい？ K君の涙に、今のわたしの姿が映し出されている。

（東京都・菊池大幹・37歳）

も 鴨に重ねて

水が綺麗といわれるこの町にUターンしてきて、20年目を迎えます。富士山の伏流水が流れる近くの川には鴨たちが泳ぎ、そのつぶらな瞳と愛らしい佇まいは、ストレスなどとは無縁のように見えます。

ウチはといえば帰ってきた当時お腹にいた長男もいまは大学へ。次男は高校生。世情を含めこれまで様々な事がありました。長いようであつという間でした。その息子たちも親の目からは一見明るく元気ですが、きつと少なからず悩みを抱え、もがいている面もあるのでしょうか。まるで優雅に見える鴨が水面下で一生懸命足を動かしているように。

親としては、いつでも良きアドバイスができるよう自分磨きを続けていきたいです。

（静岡県・田々MACとらめつこ・50代）



玉せんノスタルジィ



名古屋にお店を開いた駄菓子屋さん、一周年のイベントをされるということで、お邪魔してきました。

この日から販売開始となった玉せんを求めると、お店のかわいらしい常連さんが二人で焼いてくれました。

お店は地元の子どもたちで溢れ、兄弟でしょうか小さな子の手を握りお菓子の説明を丁寧に一つ一つしているお兄ちゃんや、お店の軒先で長椅子に座ってお菓子を頬張りながらお話ししている女の子のグループ、けん玉やヨーヨーで遊んでいる男の子たちもいます。

この喧騒もここが愛されている証拠なのでしょう。

私たちが子どもの頃は、それほど珍しくはなかった町の駄菓子屋さん。時代の流れとともに数が減り、今では個人の駄菓子屋さんは珍しいものとなってしまいました。

を頬張り、かつてこれが世界で一番美味しい食べ物だった頃の思い出に浸った貴重な時間でした。

（愛知県・のすたる爺・50代）



ひみつきち

娘達と、ひみつ基地を作って遊びました。

わたしが小さい頃、笹がトンネルのようになっていたところを見つけて、友人3人でひみつ基地にした思い出があります。

子ども達だけで「あーしよう、こーしよう」と、わ



いわい言い合い、トイレの場所やターザンをする場所を決めたり、なぜか、逃げ道を考えたり、熱狂して遊びました。

最後はカッターでツルを切っていて、友人が手を切る怪我をするという事故で、終わりました。

精神科医の佐々木正美先生の言葉に、「取り返しにつく失敗は、させましよう」とあります。なんとか取り返しのつく怪我でしたが、今思うと、ひやひやものです。

熱中していることを友人とシェアする喜びが、社会的な勤勉性を育てるそうです。わたしは、今、楽しく働いています。ひみつ基地を作ったときの熱狂は、今、働いているときの熱量につながっているかもしれません。

子ども達が、ひみつ基地作りに熱中する姿から、そんなことを考えました。

（いなべ市・ひょうきんどんぶり・40歳）



おさるのこども

長男が赤ちゃんの頃、抱っこがだんだん重たくなり、30代後半だった私の腕はかなり痛くなってきました。そんなある日、テレビで猿の親子を見ました。猿の子どもは自分の腕で母猿に抱きつき、母猿は4本足で移動していました。それを見て、

（あー、人間の子どものも自分で抱きついてくれたら、腕も痛くならないし、家事も捗るのに。猿は羨ましいなあ）

と思ったことを覚えています。それから数年後に聞いた話ですが、人間の子どものは、母体の大きさの割に生まれてくる赤ん坊の身体が大きいそうです。大人の大きさと出産直後の赤ん坊の大きさの比をとると、ほかの動物とくらべて人間の赤ちゃんは断トツに大きいのです（だから腕に限界がくるのねー）。

そう考えると人間の場合は、生物学

的にも「母親一人での子育ては難しい」と言えるのではないのでしょうか。最近「子育てで大変な時は、誰かに助けてもらいましょう」と聞きますが、本当に大変な時、誰かに抱きついて助けてほしいのは母親のほうなのかもしれません。

もっと社会全体として、子どもたちに対してはもちろん、子育てをする親にも手を差し出し、つかまっていいいだよ、と伝えていきたいですね。

（愛知県・たらちねさん・40代）

東員町との出会い

2015年に結婚して四日市のアパート住まいだった当時、家建てようと決意して、さて地域はどこにしようかと夫婦会議になりました。

東北地方出身の自分は自然あふれる田舎の雰囲気が好きで、利便性の良い桑名市出身の妻は「田舎すぎるのは……」と、相反する想いを持ったこの夫婦。

そんな両方の想いを解決してくれた地域が「東員町」でした。

土地探しをしているときに「まだ開発中ですが、東員町に土地があります」と不動産屋に紹介され、当時は「東員町？ イオンがある場所？」という反応を返したのを覚えています。

今までは車で通り過ぎるくらいの町でしたが、開発中の土地地図をもらい、いざ東員町へ！

向かう車中から見た田園風景と、ここに入り込むイオン東員は「田舎」「利便性」という自分と妻の求めるものに完全マッチ。その後すぐに不動産屋で土地購入の契約を済ませ、家が完成した2017年に引っ越してき

て、東員町民となりました。

自治会の会長さんや地域の班長さんも快く迎え入れてくれて、自治会イベントなどに参加する中で、地域の皆様との会話も気兼ねなくでき、風通しの良さを感じました。

そうした居心地の良さに加え、東員町は四季を感じられる町という魅力もあります。春は中部公園周辺の桜堤、夏は田んぼから聞こえてくるカエルの大合唱、秋はコスモス畑、冬は遠くに見える御在所岳の雪化粧に、町にうつすらと積もる雪。

サッカー好きな自分にとっては、ヴィアティン三重のホームスタジアムがあり、スポーツにも熱が入っている町というのもうれしいところです。2020年には第一子が生まれ、初めての子育て。子育て支援センターを活用させていただき、行政サービスの充実も実感しています。

友人や後輩からの「家を建てたいんだけど良い場所ないですかねー」との相談には、即「東員町良いよ」って答えています。

定住地として選んだ東員町との出会いがグッドニュースです。

（東員町・弁丸・ゴレイロ・40代）



思い立ったが新年吉日！

趣味で彩る ヤカンドリイ

独創的な陶芸作品で県展最優秀に

2021年に開催された第71回みえ県展の工芸部門で、東員町在住の松野宏さんが最優秀賞を受賞されました。

受賞作は『多様な仲間』と題された陶芸作品。6匹の陶器でできたヤドカリからなる本作は、一見して焼きものと思えないような精巧さや、可動式の関節をそなえるなどの奇抜な独創性が魅力で、ずっと眺めていたくなるような楽しい作品です。

「みんなユニークだと言ってくれます。頭の中どうなってるの、って」そう笑う松野さんですが、もともといまの完成形をめざして制作にあたったわけではありませんでした。

最初に巻き貝をひとつつくり、物足りなさを感じて中にヤドカリを入れることを思いつくと、そこから「ひとつじゃかわいそう」「まださみしい」と、しだいに数が増えていったのだとか。

また、そのころ大型スポーツイベント関係者による差別的な発言を報道で知り、多様性の時代になんということだと憤りをおぼえたことから、多様性というキーワードも出てきました。

そこで右巻きと左巻き、トゲのあるものとなないものなど、さまざまなバリエーションの巻き貝をそろえることで多様性を表現し、『多様な仲間』として完成を見たのでした。

「審査員の先生もわたしの意図したところをつかんでくれました」県展での審査評では《現代社会に尊

重されるべき「多様性」を想わせる、どこかユーモラスな作品」と評され、見事に最優秀賞受賞となりました。

定年後に初心者からスタートして

松野さんは定年退職を機に66歳から陶芸を始めました。東員町の「陶芸第一クラブ」に参加し、趣味として陶芸に親しんでいましたが、作品づくりだけでは飽き足らず、より自然変化の出やすい焼成を求め、4年もの期間を費やして自宅に薪窯まで自作してしまっただほど。さらには窯の温度や焼け方の記録をとるなど、趣味の域を超えるほどの熱の入れようです。

「技術屋だからこういうのはおもしろいんだよな」

と、はにかむ松野さん。もともと技術者として化学分野の研究開発を仕事としてきた中で、ものづくりのプロセスのおもしろさを感じていたことも大きかったようです。

「段階を踏んでなにかをつくっていくというのが性に合っているんです」そうしてもものづくりを純粹に楽しんでいた松野さんでしたが、弟さんが県展の写真部門で入選したことをきっかけに、みずからも奮起して県展のための制作を開始。それから数年、わずか3度目の出品で最優秀賞に輝いたことになりました。

「今年も出したけど入選で終わっとるし、もう1回ぐらい賞とらんと様にならんと思ってるんだけど」そう松野さんは話しますが、年数的にはまだまだ陶芸の世界に踏みだしたばかり。独自の感性とこだわりを貫いて、今後もユニークな作品を生み出していつてくれることを楽しみにしています。

取材後記

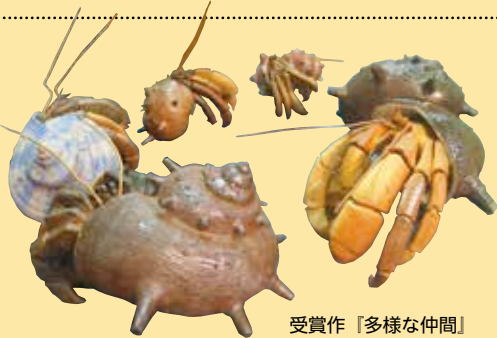
松野さんの所属する陶芸第一クラブでは、年に1〜2回、陶芸の体験教室も行なっています。新しい趣味へのきっかけづくりに、お子さんやお孫さんとの思い出づくりに、ぜひ参加されてみてはいかがでしょう。

陶芸をはじめとしたさまざまな趣味に親しむことはもちろん、活動を通じて「多様な仲間」たちとの交流もまた、日々の暮らしに彩りをそえてくれるものになるはず。

なかなか趣味が見つからないとこぼす記者に「いくらでも楽しいことありますよ、やったらいいよ」と松野さん。ちょうど新年も明けたばかり、なかを始めるとはいいい機会かもしれません。



松野宏さん(75)



受賞作『多様な仲間』

クラブ活動や体験教室に関するお問い合わせ

東員町文化協会 電話 0594-76-7711
Eメール info@toin-ca.org

達成感☆ブラボー!!

3年ぶりのお伊勢さんマラソンにハーフマラソンの部で参加。意を決して夏から準備をしてきたけれど、一向にラップは上がらずじまい。それならばと完走目指して練習してきたんだけど……、最初はほとんど置いてきぼり。でも「止まらなければ、歩かなければゴールできる!」と自分を信じて走り切った!こんなに沿道の声援がうれしくて、身に染みたのは初めてか



も!? 何よりゴールの瞬間のこの感覚、これこれこの達成感☆ブラボー!! さあ2023、よろし、もう一歩前に向かって、Be Positive! (桑名市・Be Positive!・57歳)

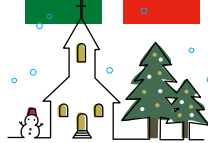
小学生の息子は、東員ミニバスケットボールクラブに所属し、日々練習に励んでいます。東員町内外の小学校から集まってきたバスケット好きの仲間たち。4月には仲間も増えました。男気あふれる子、お調子者の子、恥ずかしがり屋の子、やんちゃな子など、個性あふれる子どもたちですが、バスケットになると、みんな真剣な表情に変わり、ひたむきに練習に打ち込んでいます。難しいドリブルができるようになった。入らなかつたシュートが入るようになった。大きな声が出せるようになった。練習を見てみると、日々子どもたちの成長を感じることができ、我が子のこのように嬉しくなります。練習が終わるといつも「じゃあな!」「おう! またな!」と挨拶をして帰ります。この何気ない会話の中に仲間同士のつながりを感じ、ほっこりした気持ちになります。

卒団した中学生の先輩たちも、今もつながりを持っています。秋の大会を控えたチームのために、先輩たちが集まって試合の相手をしてくれました。た。中学生相手では、全く歯が立ちませんでした。先輩たちのプレーを見て、たくさんのかっこいいプレーを思っています。息子がアドバイスをくれる先輩や、シュートが決まると「いいよいよい!」と声をかけてくれる先輩たち。部活や勉強で忙しい中、集まってくれた先輩たちに本当に感謝です。そして、待ちに待った秋の桑名大会。まだ、チームとしては未完成のまま挑んだ試合でした。息子は試合の数日前から、緊張と心配でいつもの元気がなくなっていました。そんな時、仲間が「大丈夫か? 頑張ろうな!」と声をかけてくれ、息子もその声に応えるように頑張ることができました。試合は悔しい結果となり、みんな涙を流しました。けれど、悔しい思いをした分、今度の大会は絶対に勝つぞと、みんなの気持ちが今ひとつになっています。監督やコーチもそんな子どもたちの気持ちを受け止め、厳しくも暖かく指導してくださいます。バスケットボールを通じて出会った仲間や先輩、指導をしてくださる監督やコーチの皆さんとのつながりを大切にして、息子自身が成長していけるよう見守っていききたいです。(東員町・チロルママ・40代)

つながり

た。中学生相手では、全く歯が立ちませんでした。先輩たちのプレーを見て、たくさんのかっこいいプレーを思っています。息子がアドバイスをくれる先輩や、シュートが決まると「いいよいよい!」と声をかけてくれる先輩たち。部活や勉強で忙しい中、集まってくれた先輩たちに本当に感謝です。そして、待ちに待った秋の桑名大会。まだ、チームとしては未完成のまま挑んだ試合でした。息子は試合の数日前から、緊張と心配でいつもの元気がなくなっていました。そんな時、仲間が「大丈夫か? 頑張ろうな!」と声をかけてくれ、息子もその声に応えるように頑張ることができました。試合は悔しい結果となり、みんな涙を流しました。けれど、悔しい思いをした分、今度の大会は絶対に勝つぞと、みんなの気持ちが今ひとつになっています。監督やコーチもそんな子どもたちの気持ちを受け止め、厳しくも暖かく指導してくださいます。バスケットボールを通じて出会った仲間や先輩、指導をしてくださる監督やコーチの皆さんとのつながりを大切にして、息子自身が成長していけるよう見守っていききたいです。(東員町・チロルママ・40代)

クリスマスプレゼント



今年も小学校では、コロナの影響で色々なイベントが中止や縮小となってしまいました。

そんな中でPTAでは、子どもたちに何かしてあげたいという気持ちを、どう表現したらいいかと思い悩んだ末、子どもたちに手作りのしおりを贈ることにしました。

しおりの表面には、日本だけでなく世界の偉人たちの名言や格言を印刷し、裏面はお菓子の絵やチェックなどの柄で彩りました。

お母さんたちがそれぞれ自分で選んだ言葉とさまざまな絵柄を、裏表でラダムに組み合わせ、全校児童分で300枚ほど作りました。

素人の手作りとはいえ、1枚として同じものがないしおり。

喜んでもらえるかな、この言葉はどんな子のもとに届くのかな、高学年の子も気に入ってくれると嬉しいな。

みんなで想いを込めて、手にとった子どもたちの笑顔が想像しながら作成する時間も楽しいものでした。

サンタって大変だけど、楽しいお仕事ですね! (愛知県・おかあさん・30代)



発見「梅戸城」

そこは家からわずか5km、東員町のお隣、いなべ市大安町にあった。多くの人を知り、語り尽くされていても、偶然辿り着いた場所は自分にとっては大発見だ。

城跡への登り口に「門前地区 森林浴健康ウォーキングコース 新坂光蓮寺山公園」南坂」と看板が出ている。城跡のことは書かれていない。自転車

で入り込むのは気が引けるが、幸いまわりに人影は見当たらない。走り始めると、アスファルトの道が竹やぶの間を続く。突然、舗装は途切れ、枯れ葉の積もった急な坂道にさしかかる。崖が崩れているので、土嚢を積んだり、ブルーシートで斜面を覆ったりしてある。マウンテンバイクでも登れそうにない。自転車を押して登りつづける。ウォーキングコースならぬクライミングコースだ。

やがて、というほどの長い道のりで

もないが、前方に視界が開ける。何十本も梅の木を植えた畑が広がり、遠くの山並みが臨める。やや奥まったところに、「梅戸城跡 光蓮寺山公園」という石碑がひっそりと建てられていて、ここが城跡だと判る。城の礎石と土塁らしいものが残されている。公園とはいえ遊具は見当たらず、手作りのブランコが高い樹の下で、空からつるされたように揺れていた。

30年前に、息子が小学校の社会科で習ったといつて、家の近くの大木城跡を案内してくれた時のことを思い出した。息子は自分をはじめ城跡を見つけたかのように得意満面だった。

いくつになっても、どんなところにも、大発見はある。

(東員町・MARIOBIKE・70歳)



編集室より

2023年が始まりました。本年もみなさんからのご投稿はもちろん、新聞社としてもよりたくさんのグッドニュースを見つけてお届けしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします!

紙幅の都合や時期的な関係から、紙面でご紹介しきれない投稿記事が増えてきました。そこで、掲載しきれなかったものについては「ウェブオリジナル記事」としてホームページのブログのほうでご紹介させていただくことにいたしました。すでにいくつかアップしていますので、ご覧になってみてくださいね!

投稿募集

投稿先

〈お便り〉

〒511-0255 三重県員弁郡東員町大字長深 3393 グッドニュース新聞社 記事投稿係

〈メール〉

info@goodnewspress.co.jp

〈ホームページ〉



〈Facebook〉



〈Twitter〉



とういんグッドニュース新聞は、全国から届けられた身近なグッドニュースでつくられる新聞です。健康と活躍のまち東員町から、毎月ポジティブな話題を発信しています。ぜひ、あなたのまわりのグッドニュースをお寄せください!

投稿の際はタイトル、お名前(ペンネーム)、ご住所、年齢、ご職業をお書き添えください。掲載にあたっては事前にご連絡を差し上げます。